

創刊にあたって

このたび、日本社会関連会計学会の研究機関誌「社会関連会計研究」が創刊されることとなった。学会は昨年（1988年）9月創立されたが、毎年すくなくとも、1回の研究会をもち、その成果を機関誌に公表することとなっている。

学会設立の趣旨は、会則にもあるように、社会関連会計の研究を指向する学徒が集まり、研究会や懇親会を通じて連絡をはかり、研究を深め親睦をはかることを目的とするものである。

周知のように、現代企業は「社会のなかの企業」であり、企業の立場にたって「企業と社会との関係」を捕捉・解明しようとする『社会関連会計』は、現代会計そのものであるといえる。しかしながら、このような社会関連会計の研究は、まだその緒についたばかりである。したがって、本誌のもつ目的・使命はきわめて大きいといわねばならない。

本誌においては、青木脩会長の「あいさつ」のあと、飯田修三氏の「論壇」につづき、第1回総会（研究会）の「研究報告論文」（郡司健・向山敦夫・黒川保美氏）を収録した。なお、創刊号ということから、学会会則・会員名簿や英文の学会紹介文（オーストラリアの“Social Accounting Monitor”へ送付のもの）などを載せた。今後の編集については、なにかとご教示を賜われればと思う。

最近、世界各国においては、社会関連会計の研究が活発である。たとえば、イギリスの雑誌“Accounting, Organization & Society”や“Accounting, Auditing & Accountability Journal”などにもみられるように、会計学の新しい息吹を感じることができる。本誌が会計学の理論や実務に貢献するところがあれば幸いである。

1989年 5月

日本社会関連会計学会